

第31回県本部総会を開催

衆院総選挙・県知事選挙など、激動の秋に向けて意思統一

== * 市民と野党の共同で総選挙で勝利しよう * 組織拡大、請願

署名の自主目標の達成、映画「千代子」の製作・上映の成功を ==



8月7日、フォレスト仙台旧教育会館を会場に第31回総会を開催しました

開会前に、塩釜支部支部長の後藤行男さんが、フルートを演奏。記念講演で、杉山茂男弁護士副会長が、「憲法違反の『土地利用規制法』を斬る」を講演。戦前の「宮澤・レイン事件」を例に、この法律の適用により、このような事態を、いつでも起こすことが出来る法律であることを説明

しました。

来賓あいさつは、日本共産党宮城県委員会、宮城県労連、国民救援会宮城県本部からいただきました。メッセージは、同盟中央本部増本会長の「あいさつ」と、宮城レッドパージ反対同盟、船山ゆみ衆院比例区予定候補から。

三島隆司事務局長が、「運動方針」を提案。「コロナ禍」のもとで、活動を工夫して

、300人会員の実現と「請願署名」の自主目標をやりきること。署名活動は、「一人5筆・10筆」を、全会員の活動で実現すること。劇映画「千代子」製作上映の県実行委員会の立ち上げ、等を提しました。

「特別決議」では、菅自・公

・維政権と対決し、総選挙で勝利するための行動について意思統一を行いました。

【討論】

三條(石巻) 映画「千代子」のとりくみ、製作協力金10万円を送金。布施辰治の顕彰活動について

原(石巻) 原発再稼働反対の裁判について 裁判を有利にすすめる為の行動をすすめる
金野(大崎) 「文書」の作成と整理。「吞牛忌」をはじめ顕彰活動について

小野(女性部) 「学習会」など女性部の活動。「学習会」で、新会員2名

上西(塩釜) コロナ禍で従来のような総会を開催できない。街宣活動が百回を超



No.56号付録
宮城版No.38

2021年8月

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

宮城県本部

980-0022
仙台市青葉区五橋
1-5-13

県労連会館3F

国民救援会気付
☎022-222-6458

えた。坂猶興、高橋実さんの活動について、誰もが話できるように、幹事会で読み合わせや学習会を行っている。

2021年度役員

顧問 庄司棲彦 石巻
会長 根本京子 県本部
副会長 横田有史 県本部
遠藤いく子 仙台
杉山茂雅 仙台
☆三浦一敏 石巻
事務局長 三島隆司 仙台
同 次長 小野ともみ 女性部
佐藤ひろし 仙南
幹事 赤間政子 仙台
☆小幡正子 県本部
鹿股輝雄 大崎
上西寛 塩釜
後藤行男 塩釜
佐藤光男 仙台
椎谷照彦 仙南
高見紀子 仙台
原伸雄 石巻

会計監査☆郷古格治

☆川崎せつ子

☆印の方は、新任です。宜しくお願いします

黒田大介氏岩手日報 論説委員を迎えての

2021年布施辰治

顕彰行事のご案内

2021年令和3年

9月11日(土)

碑前祭 午後1時より

蛇田あけぼの南公園・布施辰治碑前

講話 午後1時半から

いしのみなと教会

講師 黒田大介氏

黒田氏は、石巻高校生の時から、布施顕彰碑建立に道を開いた桜井清助(古書店)三十五区店主の元で布施辰治の業績に触れて以来の布施辰治研究者。尚、碑前祭は多くの皆さんの参列を頂きますが、講話

女性部・仙台支部合同

第13回近代学習会報告

猛暑の中、7月の参加者は12名。「第2章 日中戦争と戦時体制の始まり」レポートは前回同様出浦さん。

先月からの続きとして「満州から始まった日中戦争」を学びました。

満州事変 1931年以後、日本政府と軍部は、「満州国」を確保、権益を拡大するために華北を第2の満州国にしようとする華北分離工作をすすめる―これが日中全面戦争の伏線になっていった。

1937年7月7日、盧溝橋事件、停戦したものの7月末には、華北分離のために総攻撃開始。8月には上海で中国軍と衝突、日本軍は蒋介石政権の打倒へと戦争目的を変化させた。9月蔣

介石は共産党との第2次国共合作に踏み切り抗戦、日本軍は7月以降増派を続けた。日本軍は中国に50万もの大軍を派遣し、12月南京を占領。この時日本軍は10数万から20万人と推定される中国軍捕虜や非戦闘員を殺害した。日本政府は中国での軍事行動を「支那事変」と称し、中国への宣戦布告をしなかった。これは交戦国への武器輸出を禁止したアメリカからの重要物資の輸入が停止される可能性を考慮したこと。満州事変と国際連盟からの脱退によって、国際的な孤立路線を歩んでいた日本は、諸外国との外交交渉に対する感覚が鈍っていた。戦争初期には、和平交渉も進んでいたが、南京陥落で強気になり講和条件を吊り上げ賠償を要求するなどしたため、決裂。

1938年1月自ら外交交渉を閉ざし、11月に「東亜新秩序声明」を出したことで、欧米各国から、日本が中国の権益の独占をはかるものと強い反発を招く。戦火の拡大は、諸外国の権益を犯し、アジアにおける秩序の変更を迫るものだったために、英・米・ソ連は蒋介石政権を物的・人的に支援した。日本軍は重慶に対して戦略爆撃を繰り返し、1938年後半からは「援蒋ルート」の遮断を、39年には海南島等を占領、仏領インドシナに迫る。日本軍の南進は、欧米各国に日本と対立の深まる原因となっていた。

満州事変以降軍備拡大と対外強硬政策が進められる中、治安維持法での社会運動への取り締まりが強化された。

1933年には小林多喜二虐殺、滝川幸辰教授が京大

を追われる滝川事件、1937年人民戦線事件等々、思想・学問への弾圧が激化。宮城県では1932年片倉製紙や旭紡績でストライキが行われる等労働運動が高揚、この年に仙台消費者組合や日本無産者医療同盟仙台支部、プロレタリア美術家同盟、プロレタリア作家同盟仙台支部等々が結成されるが1934年9・11での大弾圧で、壊滅させられた。

1937年戦時体制三法成立、1938年には国家総動員法が成立し、国民への経済統制が実施され、戦争一色になっていった。

出浦さんは、「1931年から1937年前半(満州事変～満州国建国～日中戦争前夜)の動向」の表を作って配布。横軸は、「満州事変と国際的孤立」「ファシズム右翼

は教会の要請で25名の入場となりますことをご理解願います。

テロ・政党政治の交代・社会運動の広がりや弾圧「宮城県における進歩と革命運動の歴史」とあり、1925年大正14年に制定された治安維持法で共産党だけではなく、全ての革新運動を取り締まり国民がものいえぬようにし、戦争への道をひた走りに進んでいったことが一目瞭然にわかるようになっていた。この2か月間の、出浦さんのご苦勞に感謝いたします。

今回は、

8月31日14時から
仙台サポートセンターにて
小野ともみ

・私の本棚
「フランスの起床ラッパ」

私が大切にしている本の一つである。「教えるとは、希望を語ること、学ぶとは、誠実を胸にきざむこと」とこのフレーズに励まされて、教職・研究職をめざした方は多いだろう。このアラゴンの詩を読んだ事がなくても、何となく知ってる人もいる。

私が持っているのは1955年発行の三一書房版である。全体が土色になって、読みにくいし、触ると壊れそうだ。それで、ネット通販で「検索」してみたら、新日本文庫版があった。なんと6千円から4万円近くもする。もちろん、「あおぞら文庫」や「電子書籍」にはない。昔のように、この本を開いて語り合いながら、酒を酌み交わすなど、おとぎ話の世界と

思える。

これは、愚痴ではない。現代の青年にもこのような経験があってもいいと思う。青年と議論を交わしたい。

さて、パソコンに打ち込んでも「電子書籍」に売り込むことは可能だと思うが、その作業をするのは、我々なにかとも思える。なんぼ売れるかではなく、青年たちにこの本を届きたいのだ。

なんか、考えてみようではないか 佐藤ひろし

編集後記

▼たいへん遅れまして申し訳ありません。「編集長」というプログラムソフトを使って作業してたのですが、突然「プログラム停止」になる。どうやら、何台ものパソコンに移植したのが、原因らしい。捨てたパソコンも

あるし、とうとう修復を諦めて、「ワード」を使う事にした。「禁則処理」や、文字列の整理など、不可解なことに悩んでいるが、どうかガマンして頂きます。▼県本部総会が終わり、1920年代から百年の節目のたたかいに突入する。「あれから百年」という言葉が乱用される気がする。しかし、これからは、直接に「政局」を争うたかいを意識する機会がおおくなる。先達方が願った世界を我々が実現できるかもしれない。▼私たちは「世論の多数派だ」と言う事が多かった。でも、それを力にするのは我々の活動の質と量である。みなさんの活動と経験を交えて、豊かな県本部の運動をすすめますよう